

2022年4月15日

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！

第23号

# すくらんぶる

## 活動情報

- 4.14 子ども活動部会
- 4.21 祭典推進会議
- 4.28 理事会
- 5.17 理事会
- 6.10 第21年度通常総会



## 校則ってなんだ？

～校則から子どもの権利を考える～

講師：後藤富和弁護士

2022年2月27日（日）14:00～16:00

たらみ図書館海のホール（諫早市）

参加者：子ども（18歳以下） 15名

大人 43名

環境問題を主に専門として、弁護士活動されている後藤富和さんをお迎えしての講演会は、子ども達が中学校に入ると校則に縛られ、自分らしくいられない窮屈さを感じているといった子どもの活動の現場の声から実現した。

本人不在のところで決まった福岡市立警固中学校 PTA 会長だったが、制服に違和感を覚えるなどトランスジェンダーの人たちが抱えるリアルな苦しみを聞く機会があり、そこから校則改革の取り組みを始めた。校則には法的根拠がない。学校文化には良く分からないものがたくさんある。部活動は学校教育の一環ではないが、勝敗にこだわり行き過ぎた指導などもある。犠牲になった話や集団の中での我慢、成功したなどの美談を人権教育に使うが、教科書には自由権（ほっといてもらうこと）社会権（人間らしく生きること）参政権が書いてある。人権とは生まれながらにして持つ権利のこと。みんなにはどんな権利、自由がある？との問いに会場から「学習会に参加する」「着る服を選ぶ」などの声。学びたいという気持ち、これは教育を受ける権利、表現の自由、ただし検閲がつかない。表現の自由には、話をする、メモをする、意見を表明するなど、まず自由がある。自由と自由がぶつかった時、公共の福祉に添っているかを考える。今の学校で子どもの権利が保障されているだろうか。決まりは守らなければいけないのか。「決まり」だからでは答えになっていない。ナチスドイツでは、決まりによってユダヤ人を虐殺していった。決まりだから守らなければいけないは、恐ろしい発想。不合理なこと、時代に合わなければ、変える権利（違憲立法審査権）がある。決まりが適切かどうかの判断は、①目的を達成するための適切な手段になっているか。②誰にとっても同じ内容を意見するものになっているか。③決まりを作る過程においてみんなが参加しているか。④お金が無駄なく使われているか、である。熊本市では校則見直しについて、教育長がメッセージを発信している。校則を決める過程に生徒、教師が同じ立場で話し合う。警固中学校 PTA の理事会では、保護者からのテーマをつのって討論した。名札は名前が分かることで事件も起きている。プライバシーの権利がある。なぜ名札が必要なのか、縫い付け式ではなく取り外しできるものにできないのか。名札を付けていると抑止力になり万引きしないという。目的は万引きさせないため。合理性がない。何で？ばかりで会長になってストレスを感じた。校長がどなり貴様やお前などの呼び方をする。朝の校門では生徒が挨拶しても先生が挨拶しないで「急げ、走れ」などと言う。学校はとてもストレスフルだ。学校改革が必要。

みんなが変だと思う校則は？の問いに会場からもたくさんの声が出た。福岡県では、眉毛を整えてはいけない、髪は耳より下で結ばないといけい、やっちはいけない髪形などがあつた。理由は社会に出たら困る、入試の時に困る、服装の乱れは心の乱れなどと言う。個人の尊重はない。学校に欠けているのは憲法への理解。憲法は国民が公務員に対して突き付けたルールである。校則といえども憲法に違反してはいけない。人権を制限するときは他の人権と衝突した場合など、最小限でなければならない。そもそも制服って必要か？公立中学校を前提に言うと標準服となっている。生徒や保護者が決めていい。必要な校則はあるだろうか？憲法があり、法律で様々縛られている。規制がある。地方での条例もある。法体系があるのにそれを越えて学校でルールをつくってはいけないと思う。校則を破ると別室登校などの罰則がある。「適正手続きの保障」というものがあつて、何かに対しては言い訳を聞かなければならない。文科省でも、有識者による校則見直し検討会など、通達を出している。福岡市立中学校校長会では、よりよい校則を目指してのガイドラインを出した。「幸せになっていいんだ」が学校に足らない。私たちには幸せになる権利がある。内田良著「ブラック部活動」にあるように先生も子どもも苦しんでいる。LGBT に対しての理解も進んでいない。今の校則は誰も幸せになっていない。校則のない中学校や高校もある。自由というのは難しい、面倒くさい。面倒くさいことをやることが社会を支える市民になっていく。

身近な問題である校則から、人権の話、そして憲法の元で自由であり続けるために市民として何をするべきなのか、講演が終わってからも、深く考えさせられるお話だった。

## 第4回県高校生青年交流合宿

2022.3.12(土)~13(日)会場:三和青少年交流センター  
参加者:ながさき6名、佐世保6名、諫早7名



実行委員会では、“交流を通して他劇場との絆を深めよう！”を全体の目標にし、それぞれの子ども劇場でもさらに自分たちの目的を話し合っで決めた。ながさき子ども劇場は「参加者全員が“一企画一言”」佐世保子ども劇場は「交流して考えを深める」諫早子ども劇場は「3R(Return Refresh Release) 少年少女の心を思い出し、心と体をリフレッシュさせ、ありのままの自分をさらけだそう」

実行委員長のながさき子ども劇場青年・増田洸くんは「今回は昨年の反省を生かし、高校生だけ、青年だけではなく高校生と青年と一緒に実行委員会を作り上げていきました。実行委員会の日程調整など難しい部分があったり、各子ども劇場で集まってのリモート会議という慣れない形で進めていきましたが、みんなが力を合わせて作りあげることができました。本当に出来て良かったなと思います。」と語った。スケジュールや担当企画など当日が楽しみになるように話し合いを進めていく中、コロナ禍で1泊にするか日帰りにするかそれぞれの子ども劇場ごとに意見を出し合い時間をかけて丁寧に検討した。その結果「ちゃんとした対策をして、泊まりたい！」という熱い意見を尊重し、全体は1泊にするが途中参加もOKという形で実施することになった。

当日は、晴天に恵まれ諫早子ども劇場の爆笑オープニングに始まり、広場で3チームに分かれて頭につけた紙風船を新聞紙の棒でたたき合う遊びなど。たくさんの親子連れが遊具で遊んでいる中を走り回っている大きな人たちの様子を見て、見物していたお父さんが「面白そうですね～。子どもがやりたいというので帰ってからやります！」と興味津々の様子だった。

ながさき子ども劇場は、ハラハラドキドキの企画、暗闇の中での闇缶蹴りとエンディングの脱出ゲームクイズ。佐世保子ども劇場は、謎の動画からの指令でスタートの昼企画。まだ到着していなかった高校生が動画で登場するというびっくりのアイデアだった。夜には、グループに分かれて“友だちの作り方”や“最近一番嬉しかったこと”などのお題を決めての語り企画。この頃には、みんなすっかり仲良くなり、盛り上がり熱く語る声も聞こえた。各子ども劇場それぞれの特色が出た企画を一日中たっぷり楽しんだ。その後もアナログゲームをしたり、おしゃべりは明け方まで続き交流を深めた。もうすぐ東京へ行くという2人の高校生もいて、この時期はみんな進級や旅立ちの時。今回の合宿は、交流を通して他劇場との絆を深めたと同時に参加者一人ひとりの心に残る貴重な時間になったのではないかと感じた。



## コーディネイト事業公演

人形劇団夢知遊座「雨ふらんでケロ、たべたいなア〜」のくくんひとり人形劇場を、2月に11ステージ予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、3月に延期し、島原の桜花保育園、有明幼稚園、諫早子ども劇場、ながさき子ども劇場の4ステージが実施できました。

演者が、園児が居るそれぞれの部屋にギター片手に訪れ、演奏と歌で迎えに行き一緒に公演場所まで行くという今まで体験したことがない形で始まりました。子どもたちは、「だれ？何が始まったの？」とびっくり。でもそれは一瞬。すぐに目をきらきらさせて興味いっぱい。人形劇の世界にはいっていきました。



主催者の園長先生は「コロナのため去年も今年も観る機会をもつことが出来ずに寂しい思いをさせ、残念に思っていたが、様子を見て、子どもたちにとって大切な時間だなと改めて実感しました。取り組んで良かった。次回も是非取り組みたい」と話されました。

またの出会いを楽しみにしています。



子ども劇場は生の舞台芸術に触れることで、子どもたちが感性豊かに育ってほしいという思い、そして、地域の中で子どもも大人も一緒に観ることで、顔見知りの関係を築き地域が繋がっていくことを目指して活動しています。

このコーナーは、子ども劇場の特徴でもある舞台芸術や文化との出会いについて、様々な角度から県内各地の子ども劇場の会員の皆さんに書いていただいています。今回は壱岐子ども劇場の赤木悦子さんです。

♥私の子ども劇場との出逢いは、26年前の1996年。福岡から主人の郷里の壱岐へ家族で引っ越してきて、転入したのが、6月と言う中途半端な時期でした。子どもたちは、幼稚園と未就園児。私自身、知らない土地で心細く、子どもたちも幼稚園に馴染めずと言う状況でした。そんなある日、息子が幼稚園から1枚のチラシをもらってきました。『長崎県子ども舞台芸術祭典』『え？こんなものがあるの？なんだかよくわからないけど楽しそうな人形劇があるんだね！行ってみようか？』と、ワクワクしながら会場へ。すると、息子の幼稚園のお友達が受付でモグリをしていました。そのお友達が「一緒に観よう！」と、息子を誘ってくれました。その時の息子の嬉しそうな表情が今でも忘れられません。

それから2ヶ月くらい後に、またチラシが来ました。その時に、『壱岐子ども劇場・鑑賞例会』を初めて認識しました。もちろん「これは入らなきゃ！」という事で子どもと私、3人で入会しました。子どもたちは地域外のお友達とも仲良くなり、色んな自主活動にも参加させてもらいました。私も子ども劇場スタッフの皆さんに良くしていただき本当にかけがえのないものになりました。鑑賞例会に出かける時は、「今日はどんなお話だろうね??」とワクワクしながら、帰りは「〇〇がこんな言葉を言っていたねー？楽しかったねー？」と車の中で会話が弾みました。息子はゲームボーイとかデジタルな遊びが好きでしたが、「劇場に行く時は持っていけない」と言う約束をしていました。始めはブツブツ言っていたのですが、会場へ行くと友達と会える楽しさ、舞台が始まると劇に引き込まれて行き、ゲームの事は忘れてしまう(笑)。舞台鑑賞のルールやマナーは、子ども劇場で学んだと思います。

ある例会の帰りの車中の時の事を、今でも思い出します。「お母さん！お月様が僕たちを追っかけてくるよ！！」と、息子。まあい大きな満月の夜でした。とても綺麗なお月様でした。子どもたちに、「わぁ本当だね！綺麗なお月様だね！きっと一緒に帰りたいんだろうね？」と、私。じんわり温かい気持ちに包まれました。大人になった今でも子ども劇場の話をよくします。子どもたちにとって素晴らしい親子の時間を過ごせたなぁと感慨深い気持ちになります。(壱岐子ども劇場/赤木 悦子)

## 第27回長崎県子ども舞台芸術祭典の作品 2022年7月15日~7月30日

あそびにきてね



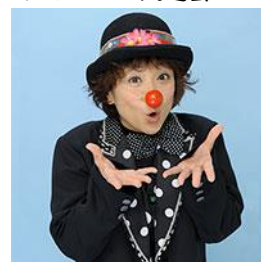
ピアノカの魔術師



サクラがいく！



チカパンの大道芸



## 子ども劇場 舞台鑑賞情報

★参加方法などについては各地の子ども劇場事務局までお問い合わせください。

作品名	月日(曜)	開演時間	場所	主催
死神 (人形劇団ブーク)	5月12日(木)	19:00	アルカス SASEBO イベントホール	佐世保子ども劇場
ピアノカの魔術師 (サウンドポケット)	5月14日(土)	15:00	長崎市民会館文化ホール	ながさき子ども劇場
りんごかもしれない (人形劇団ブーク)	5月19日(木)	19:00	芦辺町クオリティーライフ センターつばさ	壱岐子ども劇場
	5月20日(金)	19:00	諫早文化会館中ホール	諫早子ども劇場
	5月21日(土)	15:00	メルカつきまちホール	ながさき子ども劇場
ピアノカの魔術師 (サウンドポケット)	7月18日(月・祝)	13:30	未定	壱岐子ども劇場
あそびにきてね (CAN 青芸)	7月23日(土)	15:00	メルカつきまちホール	ながさき子ども劇場

**NPO 法人  
長崎県子ども劇場連絡会**

〒850-0057

長崎市大黒町 4-26

北村第一ビル 302 号室

TEL: 095-825-0533

FAX: 095-825-6151

E-MAIL: n.kogeki@alto.ocn.ne.jp

**県内子ども劇場**

ながさき子ども劇場

TEL: 095-825-0533

佐世保子ども劇場

TEL: 0956-22-6747

諫早子ども劇場

TEL: 0957-23-5689

壱岐子ども劇場

TEL: 0920-44-5010

**Web サイト**

<http://www.nakogeki.sakura.ne.jp/>

**発行**

NPO 法人長崎県子ども劇場連絡会

**第 21 年度通常総会**

6 月 10 日(金)

場所と時間は未定。

20 年度のまとめと 21 年度に向けての方針や課題、活動の提案がされます。議決権者は団体正会員の代表と、個人正会員です。

二十六回祭典の様子です。いろいろな学校の学童保育の子ども達が一緒に楽しみました。



**第 27 回長崎県子ども舞台芸術祭典**

7 月 15 日～7 月 30 日

県内各地で開催

「子どもたちに生の舞台芸術の感動と豊かな地域を」をキャッチフレーズに今年も実施します！7 月 15 日の平戸市野子青少年健全育成会主催の「ピアノカの魔術師」を皮切りに 4 つの作品が県内各所で上演されます。今年も実行委員会と実演団体が集まっての事前交流会はリモートで実施します。子どもたちの笑顔があふれる熱い夏になることでしょうか！！

**団体概要**

子どもの豊かな成長と地域の子どもの文化芸術振興に寄与することを目的に 2003 年に NPO 法人として活動を開始しました。長崎県内にある 4 つの子ども劇場や、子どもに関わる団体や個人の方とのつながりを大切にしながら、地域の文化活動を支援しています。長崎県子ども舞台芸術祭典や舞台公演のコーディネイト、講演会や学習会などの事業を行っています

**子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！  
私たちは子どもの文化を応援します。**

**★編集後記★**

2 月 3 日に『九条俳句訴訟が問いかけるもの』という学習会にリモートで参加した。講師の東京大学名誉教授で社会教育学が専門の佐藤一子先生には、教育基本法改悪反対運動の時出会った。そして知る事が大事だと、先生と他の仲間と一緒に月に一度、公民館で教育基本法の学習会を催した。その後、憲法や貧困、経済など社会的問題を題材に学習した。先生のたくさんの知識で、私たちの学びはより深いものになり学ぶ楽しさを知った。

さいたま市大宮区の三橋公民館の公民館だよりには俳句会の会員が毎月秀句を選び掲載するという慣行があった。2014 年 6 月 25 日『梅雨空に「九条守れ」の女性デモ』この俳句提出に公民館側が「公平中立に反する」という理由で不掲載。このことで 2015 年 6 月に俳句作者が地裁に提訴、24 名の弁護団（のちに 27 名）市民応援団が発足。そして 2018 年 12 月に最高裁上告棄却。2019 年 1 月に教育長の謝罪。2 月号に掲載された。これが「九条俳句訴訟」の概要である。「当事者が船を漕ぐ」とは佐藤先生の言葉だが、凜とした当事者の姿にはげまされながら、「学習権、表現の自由、掲載請求権、人格権、公の施設利用権の 5 つの権利の侵害」で共に戦った研究者、法律家、市民と一緒に船を漕いで勝ち取った裁判だったのだろう。小さな出来事のように実は日本国憲法をきちんと尊重する国なのかを問われる出来事だったのだ。後藤弁護士のお話を聞いて重なり思い出されたことであった。

2014 年 8 月の第 1 号から編集と編集後記を担当してきたが、今回が最後になった。編集後記は、折々に私の個人的信条が強かったようにも思うが、読んでくださった皆さまありがとうございます。（中山智子）

**社会福祉法人小野保育園**

諫早市小野町 676-2  
TEL0957-23-0120

**立石産婦人科医院**

諫早市栄町 7-6  
TEL0957-88-0292

**社会福祉法人深海保育園**

諫早市高来町船津 418-1  
TEL0957-32-2132



**ダイハツチバナ**

有限会社 **林田車体工業**

〒854-0126 諫早市松里町 288  
TEL 0957-23-5318 FAX 0957-24-1378



**白山陶器株式会社**

白山陶器  
〒859-3702 東彼杵郡波佐見町湯無田郷 1334  
TEL. 0956-85-3251 FAX. 0956-85-6630



**古豊歯科医院**

長崎市小峰町 3-16  
☎ 095-843-4165

**医療法人 マツオ内科クリニック**

〒854-0072 諫早市永昌町 43-6

TEL 0957-25-2225  
FAX 0957-25-2220